

## 心に残ったひとたち① - 下村盛長さんのこと

福祉の現場で過ごすといろんな人と出会います。先日きょうと福祉倶楽部に広島からお客様が見えました。

その方は広島のテレビ局で広島の被爆、とりわけ原子爆弾で小頭症を患ってしまった人たちの支援にも関わっている元テレビディレクターの平尾さんです。

なぜわざわざきょうと福祉倶楽部にお見えになったのか、それは過去に私が関わった原子爆弾に胎内で被爆され、小頭症として生まれた下村盛長さんについて SNS で想い出を語ったことがきっかけでした。下村さんの愛称は「もりちょう」さん。とても人なつこいけど、病院内ではいろいろ「やってくれる」スタッフを悩ませることもある人です。その彼の人生をきちんと拾って記録するために平尾さんはお見えになったのです。下村さんはきちんと専門職がきちんと関わってなかった故に、長く体系的な支援を得ることも無く暮らしていました。私との出会いがきっかけに多くの被爆者の支援策に繋がりました。でも、時すでに遅し。彼の身体は全身が癌に蝕まれ、右腕を切り落としてもどんどん癌は拡がりあつという間に旅立ってしまいました。詳細は限られた紙面では語り尽くせません。でも彼は本当に沢山の思い出をわたしに残しました。

知的な障がい、成長の遅れから小さな身体、そしてそれを背景にもたらされた貧困などなど。そこからの生活の再建が私の仕事でした。

無くなった被爆者手帳の復活、生活保護の申請、全身をむしばむ癌を国に原爆との関連を認めさせることなど仕事は山盛りでした。その作業の中で被爆者団体の方の一言から原爆小頭症のことが分かったのです。だけどあつという間に病勢は進んでしまいました。

腕を切り落として「痛いものは無くなって」やっと見つけた安息の場は東京の下町の小さなアパートの部屋。

そのアパートの部屋をきれいに飾り付け、厚生大臣が彼の病気を原爆放射能に起因することを証した書を額縁に飾って笑みを浮かべていたことが印象に残っています。

ある日彼が失踪。不安に思っているとひょこっと帰ってきました。心配していたことを伝えると彼は温泉に遊びに行っていたと白状し「ニタツ」と笑います。そんな日が続けば良かったのですがそれはかなわず再入院から自宅に帰る夢は叶いませんでした。あの人なつこい喜びの笑顔、再発での苦悩の顔、ふたつの彼の顔を私は見たのです。絶望の顔はもうごめんです。希望を運ぶ仕事をやれることこそ今望むことです。そして悲劇は二度と繰り返してはなりません。下村さんについて知りたい方はこちらから。下村さんの生い立ちや生きてきた記録はこれだけで無く、新聞やテレビでも紹介されています。是非探してみてください。



## 今年の猛暑をのりきろう

今年も猛暑が予想されています。

もうすでに高齢の方の脱水の事例が見られるようになりました。

高齢者は知らないうちに脱水症状を起こしてしまうことがあるのです。

その症状は下記のようなものです。

### 1.原因不明の体温上昇

### 2.急激な体重減少※7日以内に4%を超える体重減少が起こる

・40kgの方・・・1.6kg以上の減少

・50kgの方・・・2.0kg以上の減少

・60kgの方・・・2.4kg以上の減少

高齢者の尿の色は、脱水症でも濃くならないことがあるので注意

### 3.疲労感・倦怠感がある。

素人判断は危険ですが上記のような症状が出たならば早めに訪問看護や医師と相談することをお勧めします。

熱中症が進行すると最悪の場合意識障害や痙攣を引き起こします。命に関わるのです。

では、そうならないためにどうすればいいのでしょうか。

まずはこまめに水分を補給する習慣を付けることが有効です。

一日に必要な水分量は全部で約2.5リットルです。

1日に必要な水分のうち1.3～1.5リットルは食事や体内でつくられますので残りの1.0～1.2リットルを水分補給する必要があります。一度に大量の水を摂取すると、かえって体内の電解質のバランスが崩れ体調不良を引き起こしますので「こまめ」が必要なんです。といっても、嚥下障害がある方や認知症で誘導しなければ飲んでくれない人もいますよね。きょうと福祉倶楽部のヘルパーが現場でよく利用しているのは「アイソニックゼリー」（ニュートリー社）という商品です。この商品は経口補水液がゼリーになっていること、そして高齢者が自分の手で握りやすくできているのが特徴です。また容量も二種類あり、利用される方が使いやすい量を選択できるのも特徴です。市中の薬局には「OSIゼリー」という商品も販売されていますが、飲みきり、握りやすい形状という意味では前者が使いやすいように思います。

商品は介護ショップで購入可能です

製造元はこちらから

